

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表:平成 31年 3月 11日

事業所名 子ども発達支援センターこぶし園

		チェック項目	はい	いいえ	無回答	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	3	1	0	個別療育・小集団療育両方において、子どもたちの状況に合わせた部屋を利用している。	可能であれば、運動遊びのためにより広いホールなどがあればよいとは思っている。(現在は、部屋の広さに合わせた活動になっている)
	2	職員の配置数は適切である	3	1	0	個別療育・小集団療育両方において、基準を満たした体制で療育に当たっており、必要に応じて放課後等デイサービス職員も補助に入っている。	申し込みのニーズに対して職員数が少ないため、法人で体制の見直しを随時行う。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4	0	0	発達障害をお持ちのお子さんが多いため、環境をシンプルにし、スケジュール等の視覚支援や絵カードなどでのコミュニケーションツールを活用するようにしている。	次年度は、ipad-PECSなどICT機器を使った支援を取り入れたい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	4	0	0	担当を振り分けて掃除等、環境整備を行っている。	引き続き掃除や環境整備を丁寧に行い、清潔な空間になるよう努める。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4	0	0	利用児童の増加により、話し合いの時間が不足気味だと感じている。現在も、総括(振り返り)などは時間外(休日)に実施するなどして対応している。	話し合う時間の確保に努めるとともに、話し合いの質の向上に努めたい。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3	0	1	昨年度まではガイドラインに基づく評価表は利用しておらず、療育時に直接保護者からお話を聞いて意向などを聞くようにしていた。	今年度より、聞き取りだけでなく、ガイドラインにしたがって、アンケートを実施するとともにHPで公表していく。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	3	0	1	昨年度まではガイドラインに基づく評価表は利用しておらず、療育時に直接保護者からお話を聞いて意向などを聞くようにしていた。	今年度より、聞き取りだけでなく、ガイドラインにしたがって、アンケートを実施するとともにHPで公表していきます。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	2	1	現在は第三者評価を行っていない。	法人全体で今後検討したい。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	0	0	・県主催の研修や、総合支援協議会主催の研修(自閉症支援研究会)その他、外部団体主催の研修会等に積極的に参加・発表している。 ・自閉症eサービス@ふくいでの自閉症支援に特化した研修会に参加し(全てのスタッフが登録)、同じ考えで支援できるように取り組んでいる。	今後も継続して参加したい。
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	4	0	0	初回面談時に保護者から生活面等の聞き取りを行うとともに、医療機関等での発達検査などの情報を教えていただいている。もしフォーマルな評価がなければ、こぶし園にて発達検査等を実施し、支援計画に反映させている。	今後も継続していくとともに、必要な評価・発達検査などが実施できるよう研修を重ねていく。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	0	0	前項と同じような方法で適応状況を把握するようにしている。	Vineland適応行動尺度なども活用している。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4	0	0	児童発達支援計画作成時には、ガイドラインの項目を考慮し、本人の特性や家族の意向、園などでの様子をふまえて、保護者と一緒に支援計画を作っている。	今後も継続していく。より質のよい児童発達支援計画になるよう、研鑽を重ねていきたい。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	4	0	0	支援計画を頻繁に確認するようにし、計画にそった療育になるよう努めている。	今後も継続していく。より質のよい児童発達支援計画になるよう、研鑽を重ねていきたい。

適切な支援の提供	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	3	1	0	話し合いを行いながらプログラムを立てる様ようにはしているが、利用児の増加により、話し合いの時間が不足気味だと感じている。	話し合う時間の確保に努めるとともに、話し合いの質の向上に努めたい。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	0	0	季節ごとの制作など活動内容を工夫し、子どもたちに合わせた活動を設定しているが、まだ改善の余地はと感じている。	話し合う時間の確保に努めるとともに、話し合いの質の向上に努めたい。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	4	0	0	年齢等によっては全ての子に組み合わせることはできていない。回数も希望どおりとは言えない。保護者の就労状況により、利用希望がない方も多くおられる。	保護者の希望にそった支援が提供できるよう、法人内で話し合っていきたい。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	0	0	小集団療育では、活動前に日案等で内容や役割分担について確認し、支援の共有を図っている。個別療育では、朝礼で利用児について確認し、必要に応じて随時スタッフ同士確認しあっている。	継続して行う。話し合う時間の確保に努めるとともに、話し合いの質の向上に努めたい。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	1	0	退勤の時間が異なるため、必ず振り返ることは難しいが、終了時にその日の反省等を行うように心がけている。または翌日以降に確認している。	継続して行う。話し合う時間の確保に努めるとともに、話し合いの質の向上に努めたい。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4	0	0	個別の記録用紙に活動の項目別に気になることや出来たことなどを記録。今後の改善点なども記録するように心がけている。	よりわかりやすい記録作りに努める。
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	3	0	1	半年に1回程度、児童発達支援計画をもとに利用児の姿や保護者の思い、他機関の利用状況、保育園での様子などを確認している。利用児童の増加により、話し合いの時間が不足気味だと感じている。現在も、小集団療育利用児の総括(振り返り)は時間外(休日)に実施するなどして対応している。	継続して行う。話し合う時間の確保に努めるとともに、話し合いの質の向上に努めたい。	
21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4	0	0	担当者会議がある場合は、できる限り最適のスタッフが出席するようにしている。	継続して行う。	
22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4	0	0	地域の母子保健事業、子育て支援事業等の依頼を受け、スタッフとしても参加しながら連携を深めるようにしている。また、総合支援協議会の児童部会も活用するようにしている。		
23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	3	1	0	現在当該児童がいない	今後必要に応じて受け入れることも検討すべきだが、現在対処できる人員体制になっていない。当面は、医ケアの必要な子どもたちの支援について、情報を把握し、地域課題として把握していきたいと考える。	
24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	3	0	1	現在当該児童がいない	今後必要に応じて受け入れることも検討すべきだが、現在対処できる人員体制になっていない。当面は、医ケアの必要な子どもたちの支援について、情報を把握し、地域課題として把握していきたいと考える。	
25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	0	0	件数としては少ないが(1件)、入園に向けた移行支援をサポートすることもあった。	現在のところ、未就園児の利用が少ないため件数が増える見込みはないが、該当する児が利用した場合には丁寧に対応していきたい。	

関係機関や保護者との連携	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	0	0	移行支援会議がある場合は、できる限り最適のスタッフが出席するようにしている。保育所等訪問支援を利用している児の場合は訪問支援員とも連携する。	今後も継続していきたいが、小学校入学に向けた移行支援会議については、時期が重なることも多く、全員について出席することができないため、事前の保護者との話し合いや移行支援シート作りを通してサポートすることもある。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	0	1	他のセンター主催の研修に参加したり、何かの機会にお会いしたときに情報交換をするようにしている。	施設として正式にコンサルテーションを受けるといったことはしていないため、今後コンサルの必要性について法人内で話し合っていきたい。また、(福井県)地域療育拠点連絡会議等を活用できれば、他のセンターと連携する機会も増えるため、連絡会の開催について県に働きかけていきたい。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	4	0	行っていない。	現在のところ、ははまでの利用児が保育園等に在籍しそこでいろいろな子どもと生活していることもあってか、保護者よりそうした機会の必要性を求められていない。そのため積極的に企画していなかった。今後必要性について、話し合っていきたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	3	1	0	総合支援協議会については、当園が事務局を行っており、積極的に企画するようにしている。地域の子ども・子育て会議には参加していない。	総合支援協議会への参加については、今後も継続する予定。子ども・子育て会議については、担当者と連絡を取り合うなどして、連携について検討していきたい。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4	0	0	基本母子通園とし、保護者と支援者が一緒に子どものことを理解するように心がけている。また療育場面で見られた児の発達状況や課題等についても保護者にお伝えし、情報を共有できるように努めている。	今後も継続する。支援の質を高め、より正確に発達状況や課題を把握できるようにしたい。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	4	0	0	基本母子通園とし、保護者と支援者が一緒に子どものことを理解するように心がけている。小集団療育では保護者どうしのグループワークを開催し、悩みを出し合ったりみんなで話し合う時間を作っている。	今後も継続する。保護者が対応力を向上できるよう、職員の支援力向上にさらに努めたい。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4	0	0	契約時にはできるだけ丁寧に説明するよう心掛けている。疑問なことがあったときはいつでも聞いてもらうようにしている。	今後も継続する。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	4	0	0	契約時および半年に1回は、個別支援計画と一緒に作成したり見直し、保護者の同意を得ている。その際、ガイドラインについて独自にまとめたものをお渡ししている。	今後も継続する。保護者の思いを丁寧に引き出し、支援者の見立てと丁寧にすりあわせることができるよう、話し合いの質を高めるようにする。必要な支援についてのアセスメント力の向上も図りたい。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	0	0	基本母子通園とし、保護者と支援者が一緒に子どものことを理解するように心がけている。小集団療育では保護者どうしのグループワークを開催し、悩みを出し合ったりみんなで話し合う時間を作っている。	今後も継続する。保護者の思いを丁寧に引き出し、より適切な助言ができるよう、職員の支援力向上に努めたい。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3	1	0	おたより等で保護者会などの開催を呼び掛けているが、参加者が少なかったり、保護者同士連携する機会は少ない。	より参加しやすい企画を考えたい。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	4	0	0	基本母子通園とし、保護者と支援者が一緒に子どものことを理解するように心がけている。療育については、保護者と一緒に取り組むものと考え、保護者のご自分の思いや考えを話しやすいようにとスタッフみんなで努力している。	今後も継続する。保護者の思いを丁寧に引き出し、より適切な助言ができるよう、職員の支援力向上に努めたい。

非常時等の対応	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4	0	0	小集団療育では、月案を作成・配布している。 法人全体としての行事予定の予告や連絡体制のお知らせについては不十分な点もあると思われる。	今後も継続する。 よりスムーズに情報がお伝えできるよう、努めていく。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	4	0	0	個人情報を外部等に漏らさないように注意している。	今後も継続する。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4	0	0	基本母子通園とし、保護者と支援者が一緒に子どものことを理解するように心がけている。 療育については、保護者と一緒に取り組むものと考え、保護者がご自分の思いや考えを話しやすいようにとスタッフみんなで努力している。	今後も継続する。 職員の支援力向上に努める。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	0	1	総会時に並行してそば会を実施している。 外部の方も参加できる講演会を開催している。	今年度からは加えて収穫祭も企画している。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	2	2	0	各種マニュアルは策定し、いろいろな災害を想定した訓練も月1回実施しているが、保護者への周知が不十分と感じている。	お便りや掲示板等で保護者に周知が徹底されるよう努める。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4	0	0	毎月1回、地震や火災など場面を想定して実施している。	参加しなかった保護者へもお便りや掲示板等で周知し、そのことが伝わるように確認する。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	4	0	0	アセスメント時に確認するとともに、療育の中で服薬状況の変更なども確認している。	今後も継続する。 服薬内容を変更した場合、そのことが職員間によりスムーズに伝わる工夫をしていきたい。服薬についての学習も重ねていきたい。
44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	0	0	アレルギーの有無について確認し、調理等では指示に基づいた対応を行うようにしている。	引き続き、親から聞き取りを行いながら、対応について職員間で共有する。	
45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	2	2	0	現在は簡単な記録や口頭での確認に留まっている。	今後、「ヒヤリ」「ハット」が起きたときに、すぐに情報が共有できるようマップや事例集を作る。	
46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4	0	0	虐待防止の責任者をおき、年に1回外部研修を受けるとともに、その伝達講習を全職員が受けている。	今後も継続する。 加えて、法人として虐待防止委員会を設置する予定である。	
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	2	1	1	現在身体拘束を行う状況は発生していないが、「身体拘束」「行動制限」についての職員間の共通理解や組織内での共通理解が不十分だとわかった。	「身体拘束」および行動制限について改めて学ぶとともに、法人内・事業所内で組織的に検討し、児童発達支援計画に記載して保護者にも説明を行う。	